

公開実用平成 3-13914 *Ref. ③*

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U) 平3-13914

⑬ Int. Cl.⁵

A 45 D 34/04

識別記号

B

庁内整理番号

8608-3B

⑭ 公開 平成3年(1991)2月13日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 塗布具付き化粧料容器

⑯ 実 願 平1-75166

⑰ 出 願 平1(1989)6月27日

⑱ 考 案 者 飯 塚 茂 雄 東京都江東区大島3-2-6 株式会社吉野工業所内
⑲ 出 願 人 株式会社吉野工業所 東京都江東区大島3丁目2番6号
⑳ 代 理 人 弁理士 今岡 良夫

明 細 書

1. 考案の名称

塗布具付き化粧料容器

2. 実用新案登録請求の範囲

細長い有底筒の容器本体 1 の口部 2 にキャップ 3 を着脱自在に装着し、該キャップの内側から軸 41 の先端に塗布先 42 を備えた塗布具 4 を垂設して、該塗布具を容器本体 1 内に深く挿入させて成る塗布具付き化粧料容器において、容器本体 1 内に螺旋体 5 を摺動回転可能に内装するとともに、準螺旋方向にのみ回転するよう一方向回り止め手段 A を講じ、また、上記軸 41 と螺旋体 5 との間に抜き差し自在な回転伝達手段 B を講じたことを特徴とする塗布具付き化粧料容器。

3. 考案の詳細な説明

「産業上の利用分野」

本考案は、マスカラ用等の塗布具付き化粧料容器に係るものである。

「従来の技術と考案が解決しようとする課題」

従来、マスカラ用等のこの種の容器に、細長い

有底筒の容器本体の口部にキャップを着脱自在に装着し、該キャップの内側から軸の先端に塗布先を備えた塗布具を垂設して、該塗布具を容器本体内に深く挿入させて成るものがある。

また、斯る容器において、容器本体の口部内側に、塗布具の引き出しの際、軸に付着した化粧料を掻き落とす手段を備えたものもある。

しかし、マスカラ等の液体化粧料は、粘度が高いため、容器が転倒した状態にあった場合等には、容器本体内の周壁に付着した化粧料は、容器を起立させても容易に下降せず、特に、その量が少なくなると、流動性が低下するために一層時間がかかり、ときには、かなりの残量があるにもかかわらず、これに気付かないで十分に使用しないこと、或いは、付着したままで硬化して、使用不能となることがある。

本考案は、斯る従来の欠点を除去しようとするものである。

「課題を解決するための手段」

本考案は、細長い有底筒の容器本体 1 の口部 2

にキャップ 3 を着脱自在に装着し、該キャップの内側から軸 41 の先端に塗布先 42 を備えた塗布具 4 を垂設して、該塗布具を容器本体 1 内に深く挿入させて成る塗布具付き化粧料容器において、容器本体 1 内に螺旋体 5 を摺動回転可能に内装するとともに、準螺旋方向にのみ回転するよう一方向回り止め手段 A を講じ、また、上記軸 41 と螺旋体 5 との間に抜き差し自在な回転伝達手段 B を講じたことを特徴とする。

なお、螺旋体 5 の下端に小カップ 52 を設けるとよい。螺旋体 5 の一方向回り止め手段 A には、ラチェット機構を用いるとよい。また、回転伝達手段 B には、塗布具 4 の軸 41 を断面多角形に形成するとともに、該軸が抜き差し自在に嵌る多角孔 55 を有する回転体 54 を、螺旋体 5 の上端に配して、上記ラッチ機構と逆方向のラチェット機構を介して装備させるとよい。

「作用」

如上の構成であるから、容器が転倒した場合等の際には、これを起立させて、キャップ 3 を適宜

に一方へ回転させればよく、これにより塗布具 4 の軸が回転し、回転伝達手段 B を介して螺旋体 5 が準螺旋出方向に回転して、容器本体 1 内の周壁に付着した化粧料を掻き落とし、攪拌する。また、螺旋体 5 の下端に小カップ 52 を設けることにより、掻き落され攪拌された化粧料を塗布具 4 の塗布先 42 へ集めることが可能となる。

その後、塗布具 4 を引き抜いて化粧に供すればよい。

「実施例」

図面は、本考案の実施例を示している。

図示のものは、細長い有底筒の容器本体 1 の口部 2 に口筒 21 を内嵌固定させて、該口筒にキャップ本体 31 と外装筒 32 とから成るキャップ 3 を着脱自在に螺着し、そのキャップ本体 31 の内側から軸 41 の先端に塗布先 42 を備た塗布具 4 を垂設して、該塗布具を容器本体 1 内に深く挿入させ、上記口筒 21 内の上部と下部に、軸 41 に付着した化粧料を掻き落すスカート 22, 23 を付設している。

容器本体 1 内には、一対の螺旋 51, 51 の下端に



小カップ52を設け、上端にリング53を設けた螺旋体5を、螺旋51、51、小カップ52の上部及びリング53にて摺動回転可能に内装するとともに、準螺旋出方向にのみ回転するよう一方向回り止め手段Aを講じている。

この一方向回り止め手段Aは、上記小カップ52の外側にて容器本体1内下端に固定リング6を嵌合固定し、両者間にそれぞれ複数の縦突条11…、61…を設けて相互に回り止め係合させ、小カップ52の外周に鋸歯状の歯54を周設し、固定リング6にその歯54と噛合する一対の戻り止め爪62、62を設けて、螺旋体5が準螺旋出方向にのみ回転するラチェット機構を構成して成る。

また、塗布具4の軸41と螺旋体5との間に抜き差し自在な回転伝達手段Bを講じており、該回転伝達手段は、塗布具4の軸41の要部を断面多角形に形成し、該軸が抜き差し自在に嵌る多角形孔55を有する回転体54を、螺旋体5上端のリング53内へ回転可能に嵌合させるとともに、リング53内に鋸歯状の歯56を周設し、かつ、回転体54にその歯

56と噛合する一対の戻り止め爪57, 57を設けて、上記一方向回り止め手段Aのラチェット機構と逆方向に作用する他のラチェット機構を構成して成る。

なお、図中、7は、パッキングである。また、以上の各部材は、合成樹脂製である。

如上の構成であり、容器本体1内には、マスカラ等の液体の化粧料を収容し、化粧に供するときには、従来同様にキャップ3を螺脱して塗布具4を引き抜けばよく、これに伴い、その螺脱の際には、軸41の回転が回転体54とそのラチェット機構を介して螺旋体5に伝達されて、螺旋体5が準螺出方向に回転し、該螺旋体の螺旋51, 51により容器本体1の周壁に付着した化粧料が掻き落されると同時に攪拌されて、螺旋体下端の小カップ6内に流入する。したがって、周壁に付着するわずかな化粧料も全て塗布具4の塗布先42へ供給されることになる。また、塗布具4の引き抜きの際には、塗布具4の軸41に付着した化粧料及び塗布先42の余分の化粧料がスカート22, 23により掻き落される。

次に、化粧終了後は、従来同様に容器本体 1 内へ塗布具 4 を挿入し、キャップ 3 を口部 2 へ螺合させればよく、この螺合の際には、螺旋体 5 の一方方向回り止め手段 A が働いて、つまり、ラチェット機構において戻り止め爪 62、62 が歯 54 に係合して、螺旋体 5 は回転せず、また、回転体 54 がラチェット機構においてスリップして空回りするので、キャップ 3 の螺合には支障を生じない。

「考案の効果」

本考案によれば、螺旋体 5 の回転により容器本体 1 内の周壁に付着した化粧料を掻き落とし及び攪拌でき、そして、周壁に付着するわずかな化粧料も塗布具 4 の塗布先 42 へと供給でき、したがって、収容された化粧料は全量が無駄なく使用できる。

また、螺旋体 5 の回転は、キャップ 3 を回転させるだけで、塗布具 4 の軸 41 を通じて行えるので、操作が容易であり、しかも、別個の操作機構が不要であり、構造を簡潔にでき、安価に提供できる。

4. 図面の簡単な説明

図面は、本考案の実施例で、第 1 図は、截断側

公開実用平成 3—13914

面図、第 2 図は、要部の分解截断斜視図である。

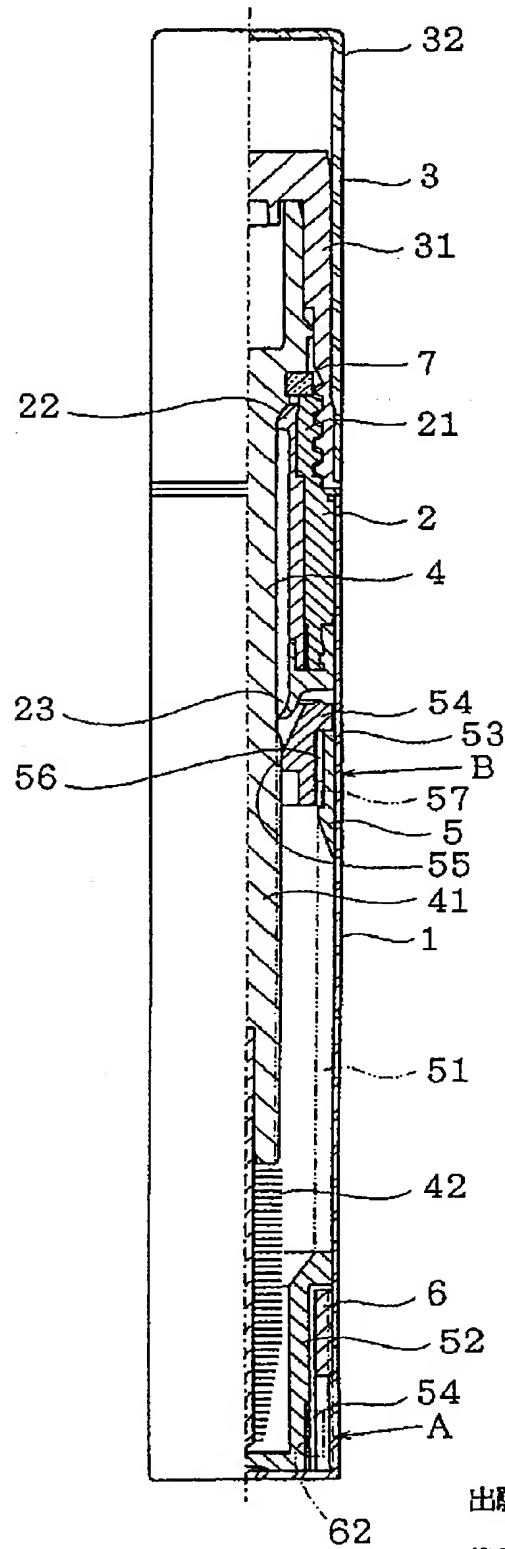
- | | |
|----------|-----------|
| 1 … 容器本体 | 2 … 口 部 |
| 3 … キャップ | 4 … 塗布具 |
| 5 … 回転体 | 6 … 固定リング |

出願人 株式会社 吉 野 工 業 所

代理人 弁理士 今 岡 良 夫



第 1 図

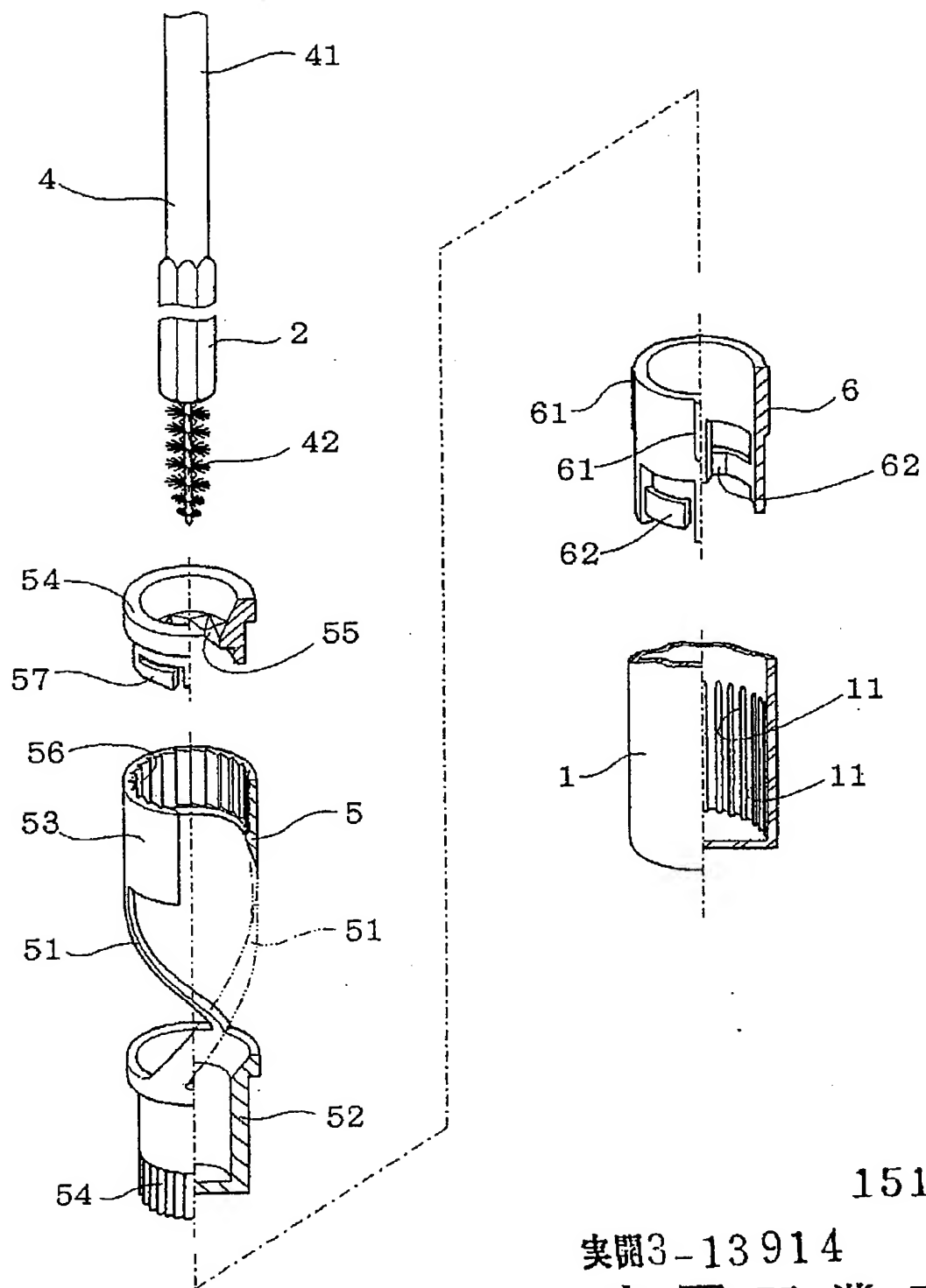


150

実開3-13914

出願人 株式会社 吉野工業所
代理人 弁理士 今岡良美

第 2 図



151

実開3-13914

出願人 株式会社 吉野工業所
代理人 弁理士 今岡良

